

岡崎市議会議長 様

支出番号	
------	--

会派名	公明党
代表者名	野島 さつき

下記のとおり、政務活動を実施したので報告します。

政 務 活 動 旅 行 報 告 書

令和 8年 3月27日提出

活動年月日	令和 8年 2月4日 (水)	
氏名	野島さつき 土谷直樹	
用務先 及び 内 容	1 2月4日	用務先 兵庫県 伊丹市
		内 容 災害時応援協定について
	2 月 日	用務先
		内 容
	3 月 日	用務先
		内 容
	4 月 日	用務先
		内 容
備 考		

政務活動調査報告書

視察日	令和 8 年 2 月 4 日（水）
視察場所	兵庫県 伊丹市
視察内容	災害時応援協定について
視察者名	野島さつき 土谷直樹
町の概要	面積：25.00 km ² 人口：200,284 人 人口密度：8,011.36 人/km ² 世帯：94,192 世帯 経常収支比率：92.5% 実質公債費比率：4.6%

＜視察の目的＞

伊丹市が進めている「災害時応援協定」の締結状況および運用の考え方、認定 NPO 法人日本レスキュー協会との協定内容、官民連携の在り方について学び、本市における支援の充実に活かすことを目的として視察してまいりました。



＜災害時応援協定＞

伊丹市では、災害発生時における迅速かつ円滑な支援体制を確保するため、平時から多様な主体と災害時応援協定を締結している。災害時応援協定数は 124 件（2026 年 1 月時点）

で行政機関、企業、NPO 法人、医療・福祉関係団体など、分野横断的な連携体制が構築されている。

近年においては、仮設トイレや発電機、建設用重機を優先的に提供する企業、生活必需品を供給する企業、電動車両による給電支援を行う自動車関連企業など、災害対応の初動を具体的に支える実務型協定が拡充されている。

①災害時応援協定の締結数
124件（令和8年1月時点）



②近年の締結先

年度	締結先	内容
R6 (7件)	兵庫県弁護士会	被災者に対する弁護士による相談（生活再建等）
	兵庫県司法書士会	被災者に対する相談（相続、不動産登記等）
	伊丹市社会福祉協議会	災害ボランティアセンターの設置・運営等
	西日本旅客鉄道㈱【相互協定】	災害時に駅舎を避難所として避難者の受け入れ 大規模輸送障害時に公共施設を開放して帰宅困難者を受け入れ
	コーナン商事㈱	日用品、食料品、冷暖房器具、資材等の物資の提供
	スギホールディングス㈱	医薬品、日用品、排せつケア用品等の物資の提供
	㈱佐川急便	支援物資の避難所等への輸送、集積・搬送拠点での荷役作業等
R7 (4件)	三菱自動車工業㈱	電動車両等の貸与（避難所等における電力の確保）
	兵庫三菱自動車販売㈱	
	㈱ユアサ	トイレットペーパー、ティッシュペーパー等の生活物資の提供
	認定NPO法人日本レスキュー協会	救助犬の派遣、セラピードッグの派遣、被災ペットの飼育支援等
	㈱アクティオ	レンタル機材（発電機、仮設トイレ等）の提供

<日本レスキュー協会との協定>

2014 年に災害協定が結ばれていたが内容は災害救助犬による安否不明者の捜索活動の支援に限られていた。

平成26年（2014年） 災害時応援協定を締結

平成15年より、総合防災訓練に参加いただくなど災害サポート登録制度の協力事業者として、関係の構築を行っていた。平成26年には、日本レスキュー協会とより緊密な連携を図ることを目的に協定締結に至った。



↑締結式の様子

令和 7年（2025年） 災害時応援協定の見直し

近年、「災害関連死」への対策として、避難生活が長期化した際の、被災者への心身の健康確保についての取組も必要とされており、セラピードッグは被災者に対する心のケアの一つの手法として期待できること。また、避難所でのペット同行避難等における飼育支援などへの対応協力など、新たに日本レスキュー協会に支援頂きたい内容を追加することを目的として協定を見直した。



↑ふれあいの様子

2025 年度に災害時応援協定を見直し再締結。

被災者の心をケアするセラピードッグの避難所や仮設住宅への派遣、避難所での被災ペットのしつけなどの飼育支援も追加。

従来の物資供給や人員派遣にとどまらず、「命を探す」「心を支える」「人とペットの共生を守る」という、被災者に寄り添った支援としている点が大きな特色。



<所 感>・・・野島さつき

防災の取組の中でも、特に共助にあたる災害時応援協定について学んできました。

伊丹市では近年、生活再建などの被災者に対する相談として兵庫県弁護士会や司法書士会、医薬品の提供先としてスギホールディングス㈱との協定を、西日本旅客鉄道㈱とは、災害時には駅舎を避難所として避難者を受け入れることと、大規模輸送障害時に公共施設に帰宅困難者を受け入れる相互協定を結ばれています。

中でも注目したいのは、災害救助犬やセラピードッグの育成や派遣などを行う認定 NPO 法人日本レスキュー協会との協定です。伊丹市内に本部を置く同協会との間では、2003 年から総合防災訓練に参加いただくなど、災害サポート登録制度の協力者として関係構築を図って来られました。2014 年に災害協定が結ばれ、災害救助犬による安否不明者の捜索活動の支援が盛り込まれました。近年、「災害関連死」への対策として、避難生活が長期化した際の、被災者への心身の健康確保についての取組も必要とされてきたことから、2025 年に協定を再締結し、被災者の心をケアするセラピードッグを避難所や仮設住宅へ派遣することや、

避難所での被災ペットのしつけなどの飼育支援が追加されました。

日本レスキュー協会は、能登半島地震の被災地においても、セラピードッグとハンドラーが訪問し、ふれあいを通じた心のケアを行っています。仮設住宅では、知り合いが少ない環境や生活の変化により、会話の機会が減少し寂しさや孤独を感じる人もいます。セラピードッグとのふれあいが、会話のきっかけや地域の繋がりを育む一助になっているようです。また、ペット支援活動として、ブラッシングの仕方を教えたり、健康面のアドバイスをするなど、困りごとをサポートを実施されています。慣れない生活環境の中で、ペットと一緒に快適に過ごすために、室内でのケージの使い方やごはんのあげ方、ほめることを主としたしつけ方などのポイントを伝えるマナー講座なども実施され、大変喜ばれています。

大規模災害時には、多くの被災者が長期にわたり避難生活を送ることになります。日頃から民間団体などと良好な協力関係を築いておき、災害時には協働して支援活動ができるような体制を準備しておくことは非常に大切であります。本市も数多くの支援協定を結んでおりますが、ペットに関するものは無いように思われます。ペット防災、同行避難等、平時から学ぶ機会も必要と考えますので、民間団体との協定について、今後提案していきたいと思っております。

<所 感>・・・土谷直樹

防災の取組の中でも、自助・共助の要となる「災害時応援協定」の実効性について学んできました。伊丹市では、生活再建支援として弁護士会等との連携や、スギホールディングス(株)による医薬品供給、さらには JR 西日本と駅舎を避難所として活用する相互協定など、多角的なネットワークを構築されています。中でも、認定 NPO 法人日本レスキュー協会との間で締結された、災害救助犬やセラピードッグに関する協定は能登半島地震などの被災現場での教訓を経て、より実用的な内容へと再締結されたものです。

当初は救助犬による搜索活動が中心でしたが、避難生活の長期化に伴う「災害関連死」を防ぐため、2025 年の再締結では被災者の心をケアするセラピードッグの派遣や、避難所での被災ペットに対する飼育支援が新たに追加されました。同協会は能登半島地震の被災地においても、セラピードッグとともに仮設住宅などを訪問されています。慣れない環境で会話が減り、孤独を感じやすい被災者にとって、犬とのふれあいは笑顔を取り戻すきっかけとなり、地域コミュニティを繋ぎ止める大きな役割を果たしています。また、室内でのケージの使い方や、ほめることを主としたしつけ方のポイントを伝えるマナー講座などは、ペットを家族として大切に飼う飼い主の方々に大変喜ばれているとのことでした。

大規模災害時には、行政の手が届きにくい細やかな支援が不可欠となります。日頃から専門性を持つ民間団体と顔の見える関係を築き、派遣要請や受け入れ体制を明確にしておくことは極めて重要です。本市における民間団体との協定の拡充や、実効性の向上について、今後積極的に提案していきたいと思っております。

以 上